



はじめに

2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大は、大学教育を一変させました。全国のほとんどの大学において、授業がオンラインによる遠隔となり、実習・実験科目も例外ではなく、PCの画面を通じた実習や実験が行われることとなりました。朝日新聞と河合塾が全国の大学を対象に行った調査によると、オンライン授業のどこに問題があるかを尋ねたところ、最も多くの大学が課題であるとしたのが、「実験・実習・実技系科目への対応」であり、実に9割以上の大学がその対応に困っていたとのことでした（朝日新聞、2020年8月24日）。

秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科は農学系の学科であり、農業技術実習（2年次）やプロジェクト実習（3年次）といった「農場等のフィールドでの実習」がカリキュラムの中で大きなウエイトを占めており、このことは学科にとっての一つの特長になっています。ですから、2020年度前期に本学が「全授業を遠隔で実施する」という方針を示した時には、実習・実験科目担当者に大きな衝撃と不安を与えました。「どうやって農学系実習をオンラインでやるのか?」、「そもそもオンライン実習とはどんなものなのか?」。まさに朝日新聞の調査結果の通り、実習・実験科目担当者らは手探りで苦労を重ねながら、「遠隔実習」を模索してきました。

この事例集は、2020年度前期においてアグリビジネス学科のカリキュラムの中で実施された、農学系実習・実験における遠隔授業の事例等をまとめたものです。上記の通り、模索しながら実施した事例ですので、「優れた先生による優れた工夫」もあれば「初心者先生による初心者の工夫」もあると思います。「読者の手本」だけでなく、「遠隔初年の苦労の跡」も残すことは、今後の遠隔での実習・実験のあり方を考える時のヒントになるはずだと考えて、この事例集を発行しました。

最後に、遠隔実習の実施にあたり、秋田県立大学教職員、特にフィールド教育研究センター職員の皆様に多大なご協力をいただきました。アグリビジネス学科学生の皆様は、我々の不慣れな遠隔授業に対して「先生がたも頑張ってくれている」と評価してくれました。なお、本事例集の発行には科研費（課題番号 18K02960）による助成を受けました。紙面をお借りし、記して感謝の意を表します。

神田啓臣（グループ代表）

